

2 まちづくりの現状と課題等

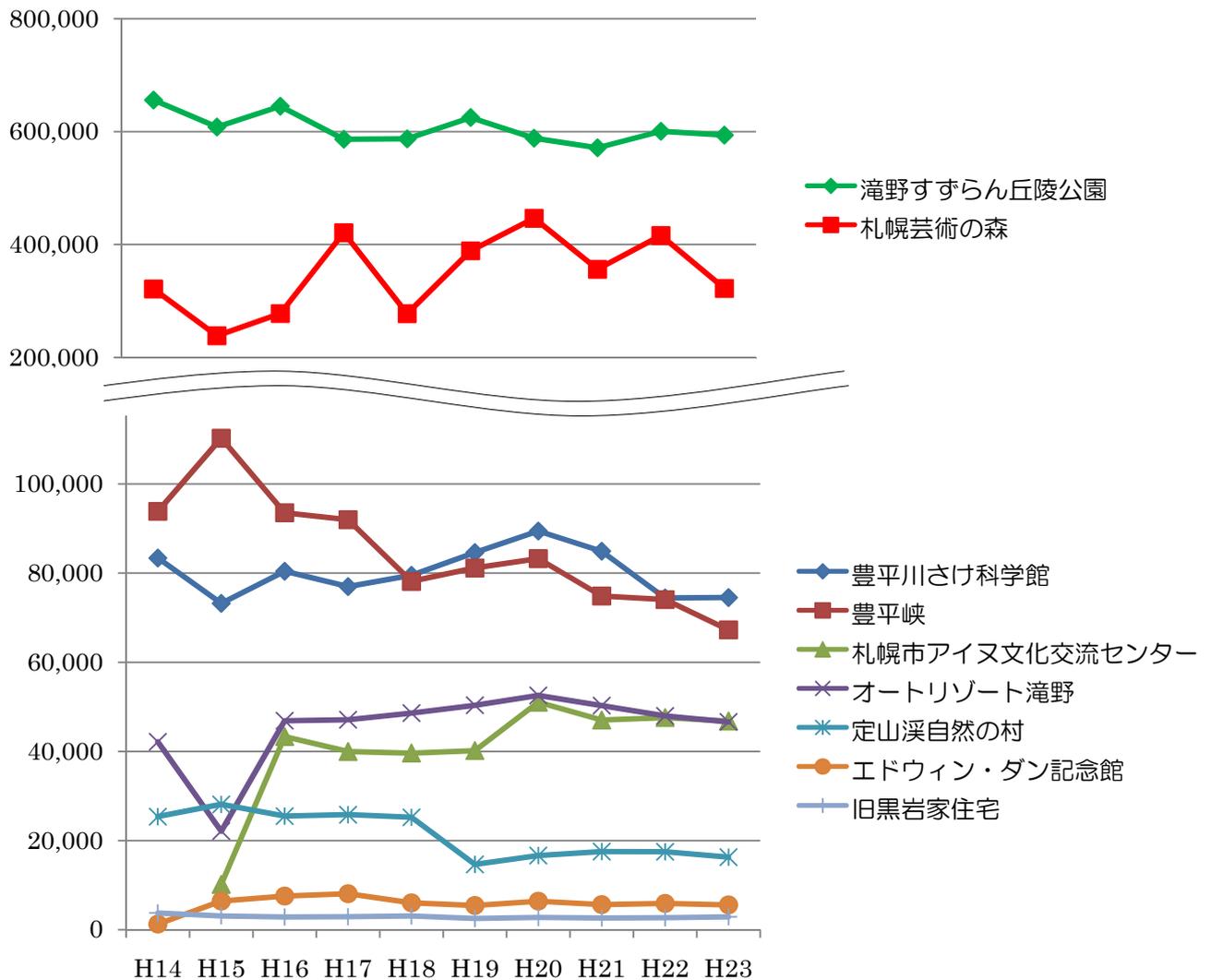
2-1 南区の現状と課題等

南区は、札幌市域の約 60%を占める広大な面積を有し、区域の大半が山岳地帯です。札幌の魅力の1つである豊かなみどりや市民の水源地のほとんどを南区の大自然が担っています。

また、昭和 44 年（1969 年）まで定山溪鉄道が運行されていたこともあり、集落が主に国道や豊平川沿いに発達してきたため、市街地は細長く、拠点が形成しづらい形状となっています。

一方で、これらの市街地では、戸建住宅地が主体となっており、自然に囲まれたゆとりある居住環境が形成されています。また、芸術の森や定山溪など、芸術文化の拠点や道内外から多くの観光客が来訪する観光拠点、札幌市立大学をはじめとする教育機関など、多様な地域資源が存在しています。

◆南区の主な観光施設とその利用客数

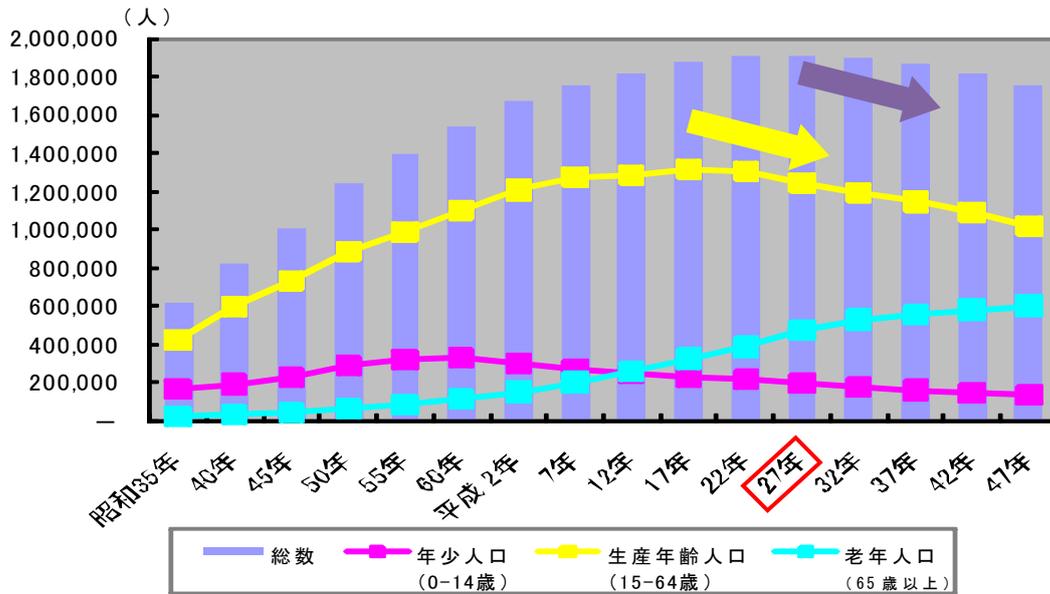


「札幌の観光」より抜粋

しかし、札幌市の人口は、平成 27 年（2015 年）まで増加を続けたあと、減少に転じると予測されており、南区の人口は既に平成 10 年（1998 年）から減少し続けています。

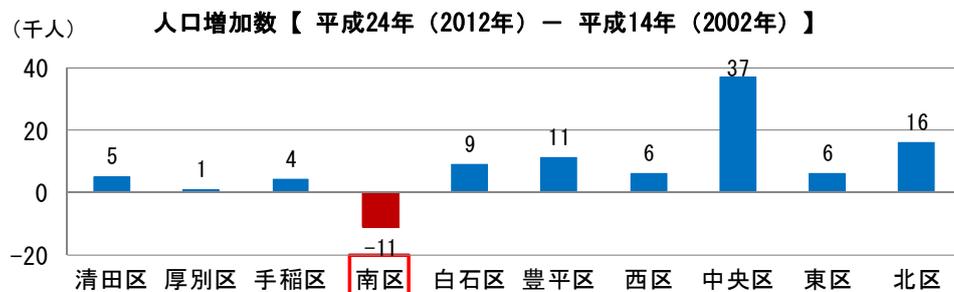
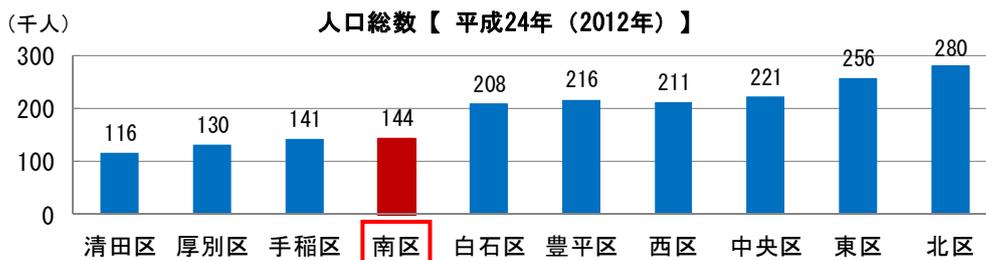
また、10 区の中で年少人口割合が最も低く、かつ老年人口割合が最も高くなっており、少子高齢化が最も進行しています。

◆札幌市の人口予測



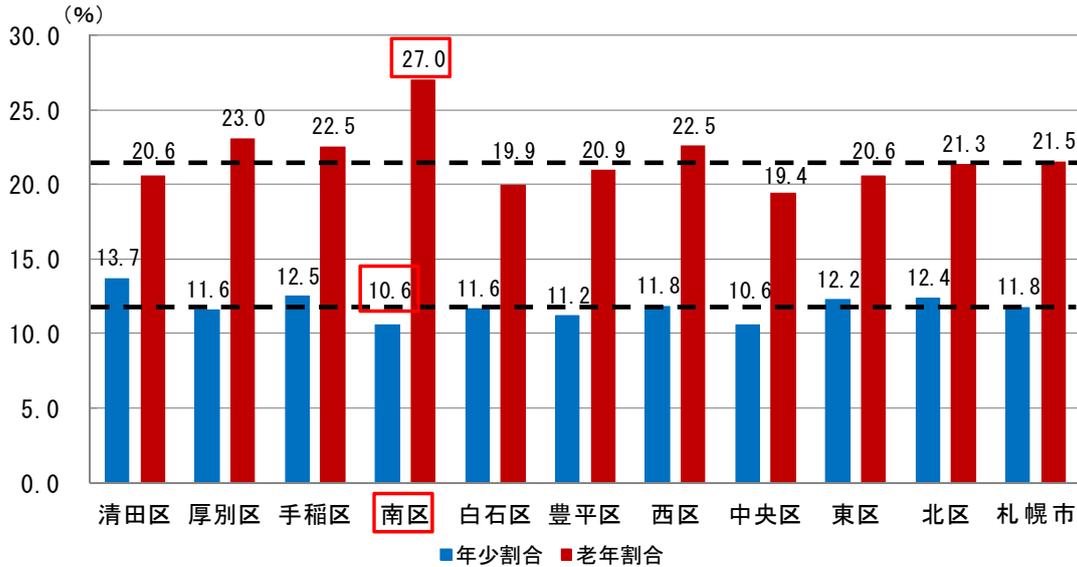
出典：国立社会保障・人口問題研究所

◆各区の人口動向



- 南区は平成 10 年（1998 年）に 10 区で初めて人口が減少に転化
- 南区は平成 14 年（2002 年）から平成 24 年（2012 年）の 10 年間で、約 11 千人が減少 (住民基本台帳)

◆各区の年少・老年人口割合
【平成 24 年（2012 年）】



○南区は 10 区の中で年少人口割合が最も低く、かつ老年人口割合が最も高い

○10 区で最も少子高齢化が進んでいる

(住民基本台帳)

2-2 真駒内地域の現状と課題等

(1) 現状・経緯等

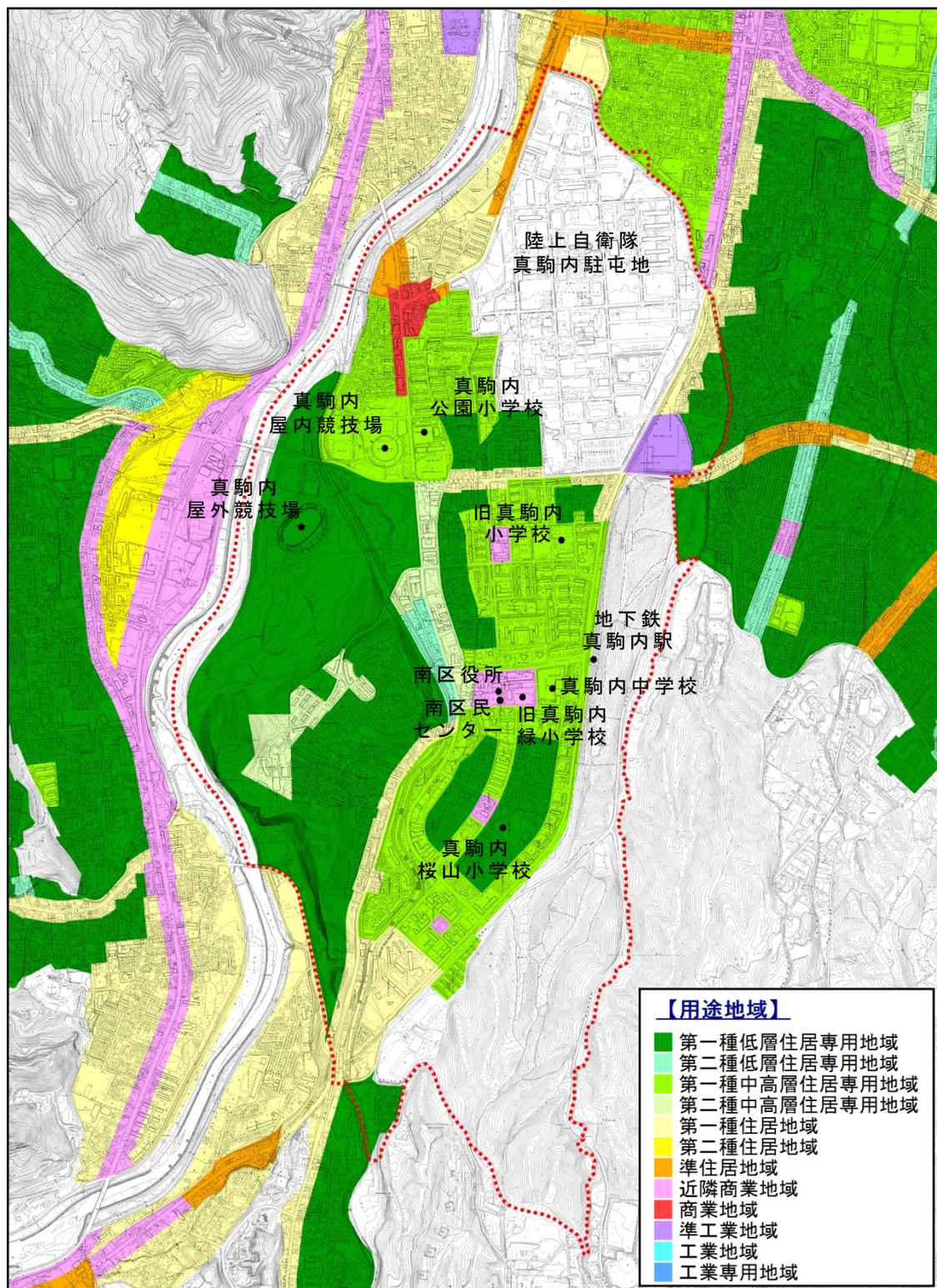
真駒内地域は、開発経緯の異なる住宅地と真駒内公園、陸上自衛隊駐屯地等で構成され、札幌冬季オリンピックの主会場となるなど、特徴的な歴史を有する地域です。

○ 真駒内地域の歴史

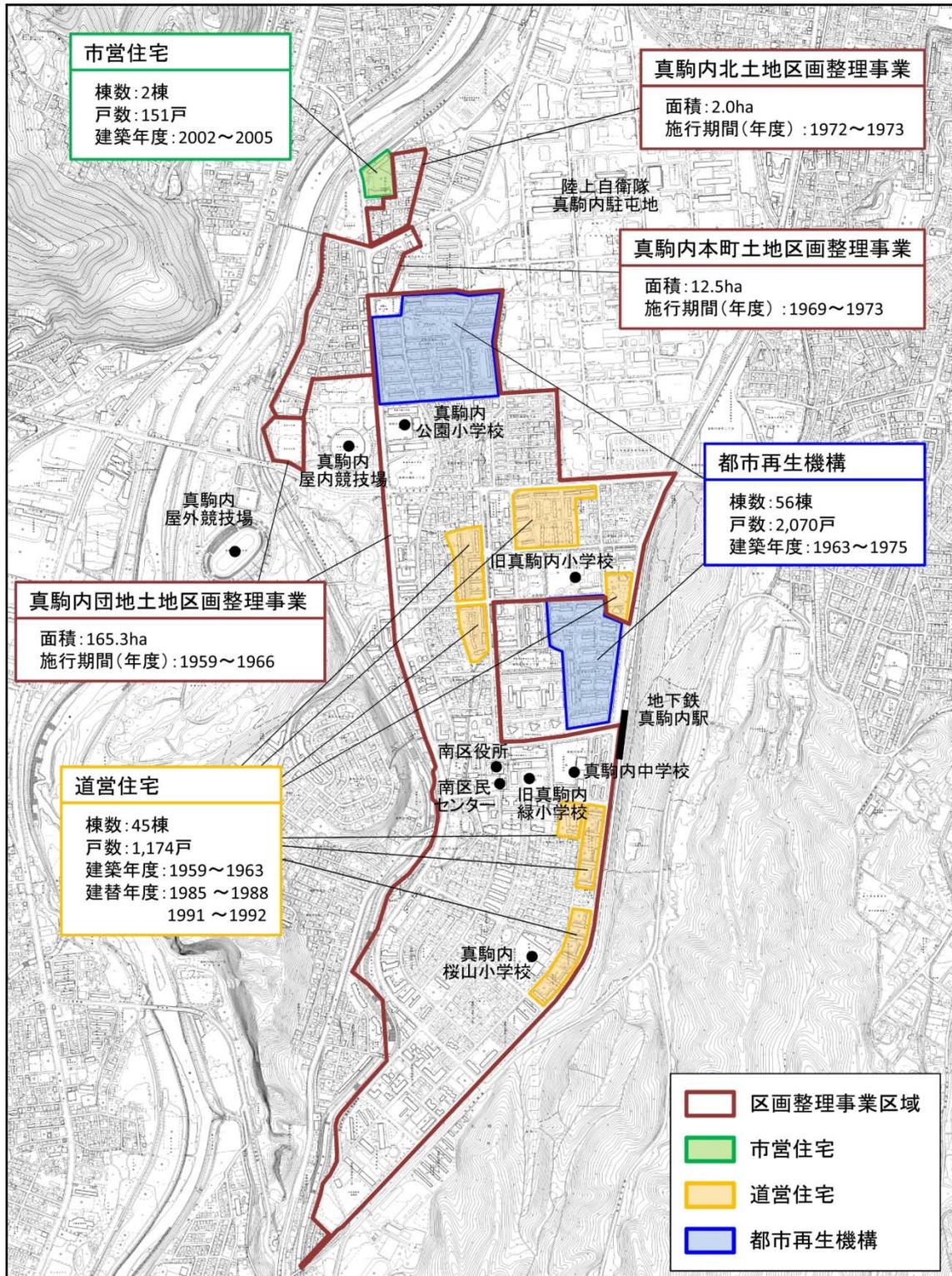
年代	できごと
明治 9 年(1876 年)	エドウィン・ダンが真駒内に牧牛場（後の真駒内種畜場）を開く
大正 12 年(1923 年)	真駒内種畜場内にモーテン・ラーセン農場開設
昭和 21 年(1946 年)	真駒内種畜場が米軍に接収され、キャンプ・クロフォードの建設始まる
昭和 30 年(1955 年)	キャンプ・クロフォードの返還開始、代わって自衛隊が駐屯
昭和 34 年(1959 年)	キャンプ・クロフォードの返還終了、真駒内団地の造成開始
昭和 40 年(1965 年)	さっぽろ雪まつりが真駒内会場でも催される
昭和 41 年(1966 年)	真駒内団地土地区画整理事業完了
昭和 46 年(1971 年)	地下鉄南北線開通
昭和 47 年(1972 年)	札幌冬季オリンピックの開催 政令指定都市移行に伴い南区誕生
昭和 50 年(1975 年)	真駒内公園開園
昭和 54 年(1979 年)	南区民センター完成
昭和 59 年(1984 年)	真駒内児童会館オープン
昭和 60 年(1985 年)	駒岡清掃工場操業開始
平成 6 年(1994 年)	真駒内五輪児童会館オープン
平成 17 年(2005 年)	さっぽろ雪まつり真駒内会場が廃止

このうち真駒内団地は、札幌市の人口急増を受け止める住宅団地として、昭和34年（1959年）から昭和48年（1973年）にかけて北海道により造成されました。計画的に開発された大規模住宅団地であることから、戸建住宅用地、集合住宅用地、商業・利便施設用地等が明確に区分され、道路・公園・学校等が計画的に整備されるなど、ゆとりと落ち着きのある住宅地が形成されています。

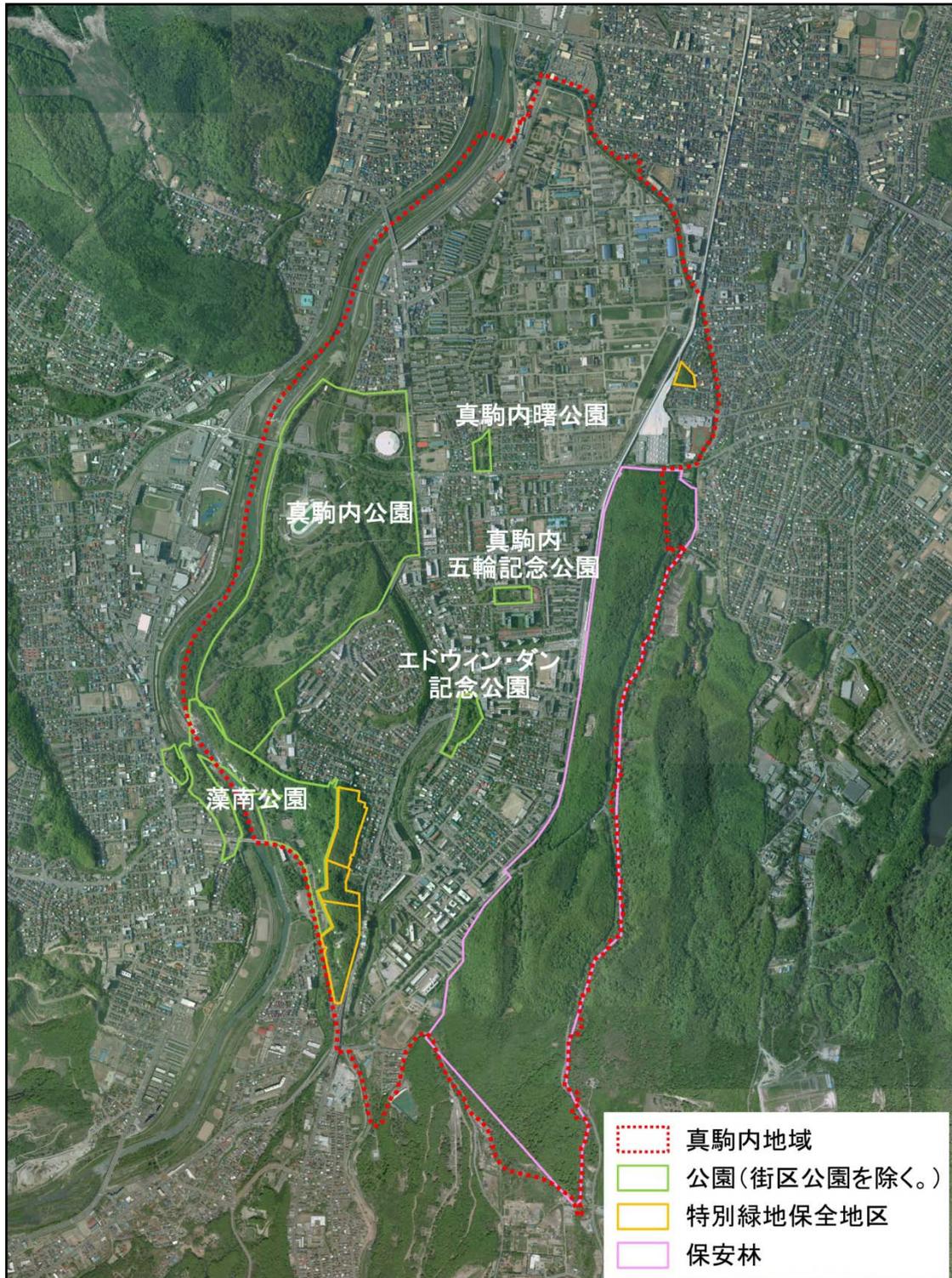
○ 真駒内地域の用途地域



○ 真駒内地域の公的開発状況



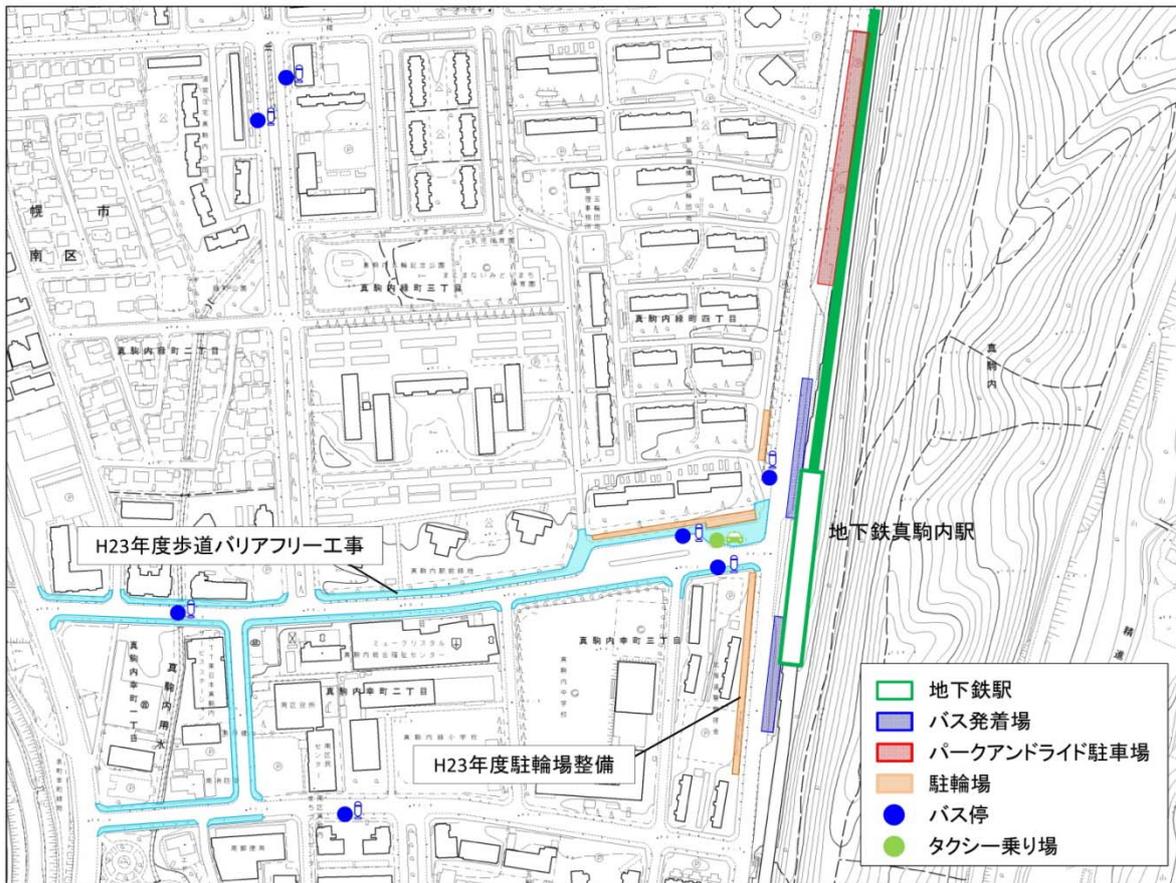
○ 真駒内地域のみどりの状況



また、真駒内駅前には、交通結節点としてバス発着場やタクシー乗り場、駐輪場等が整備されているとともに、南区役所、南区民センター、南消防署、学校などの公共施設が数多く集積し、南区の生活拠点としての役割を果たしています。

さらに、駅前地区、UR五輪団地及び柏丘地区については、駒岡清掃工場の廃熱を利用した地域熱供給※³が整備されています。

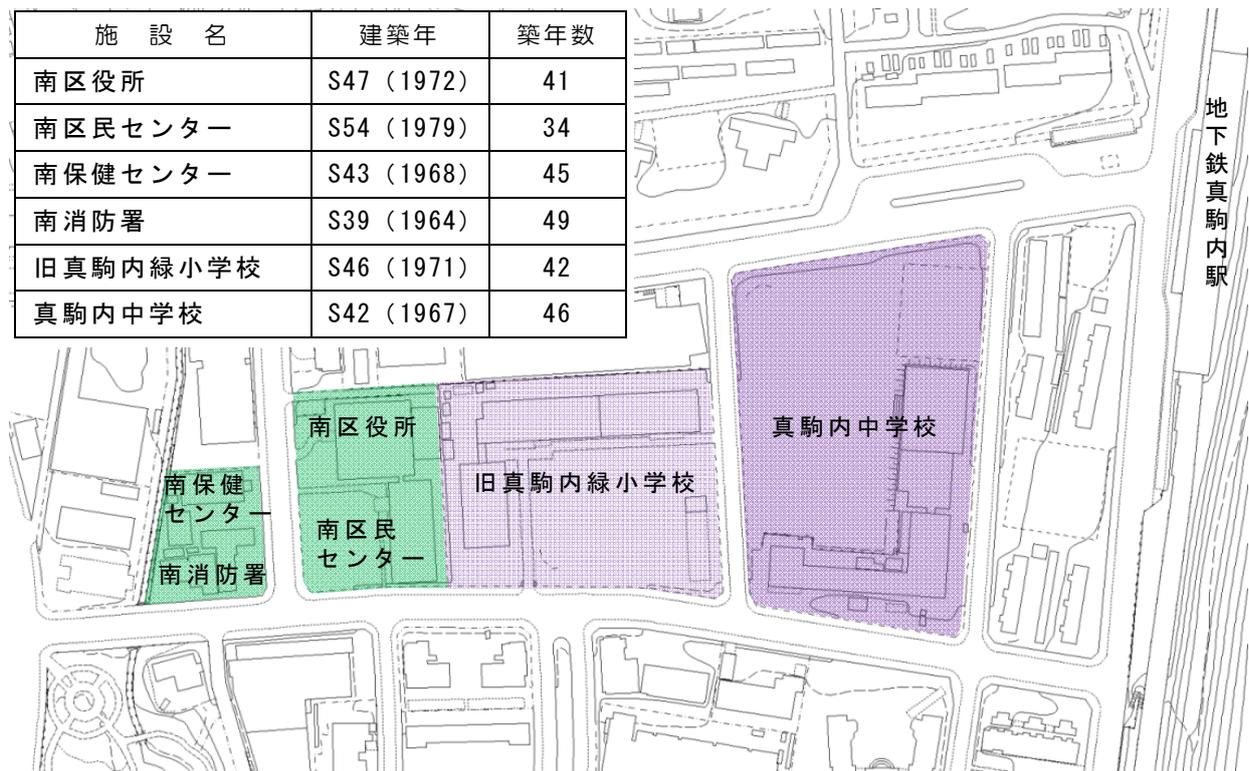
○ 交通施設の配置状況



※³ 地域熱供給…1か所または数か所のプラントから複数の建物に配管を通して、冷水・蒸気（温水）を送って冷房・暖房等を行うこと

○ 真駒内駅前地区の市有施設の配置状況

施設名	建築年	築年数
南区役所	S47 (1972)	41
南区民センター	S54 (1979)	34
南保健センター	S43 (1968)	45
南消防署	S39 (1964)	49
旧真駒内緑小学校	S46 (1971)	42
真駒内中学校	S42 (1967)	46



○ 真駒内地区熱供給エリア概要図



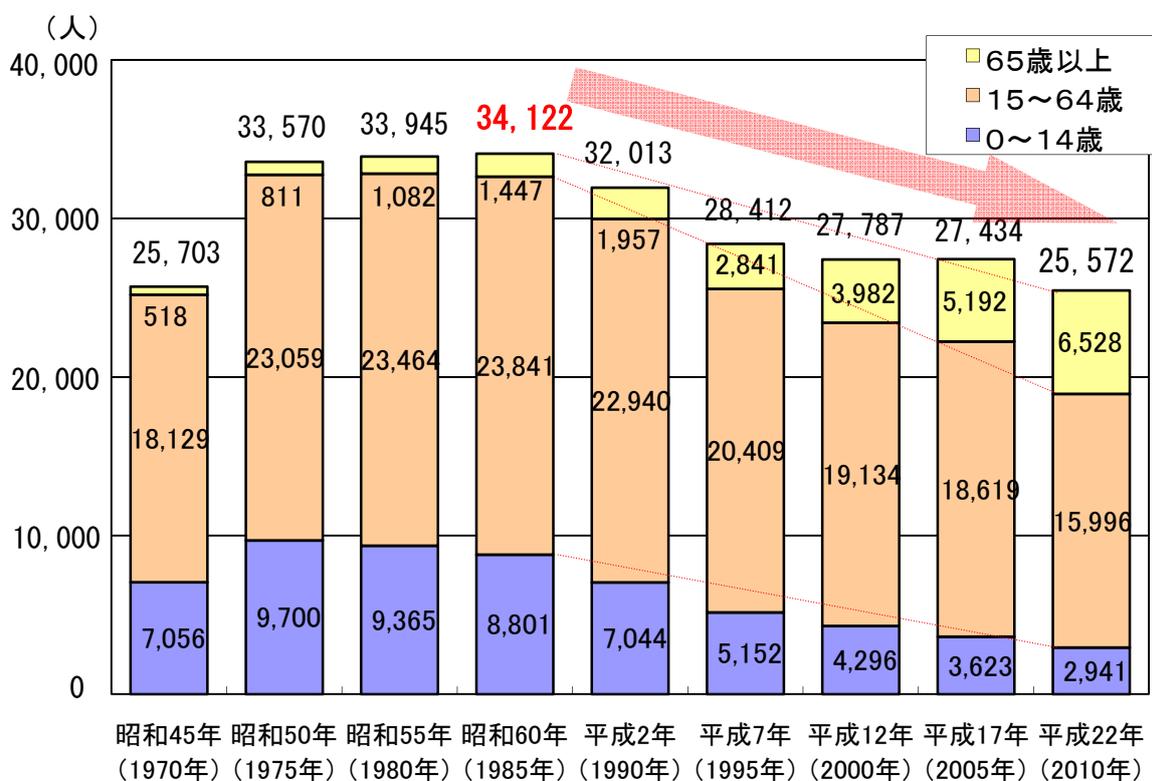
<北海道地域暖房株式会社ホームページより抜粋>

(2) 課題

① 人口減少と少子高齢化に伴う課題

真駒内地域では、区内の他の地域と同様に、少子高齢化を伴う人口減少が進行しています。特に高齢化の傾向が顕著であり、平成 24 年（2012 年）10 月の住民基本台帳によると 65 歳以上の老年人口割合は、札幌市全体の 21.5% に対し、真駒内地域は 27.5% と、まちづくりセンター所管区域別に見ると市内 87 か所中 7 番目に高くなっています。人口については、昭和 60 年（1985 年）をピークに減少し続けており、ここ最近の 10 年間では約 10% の人口が減少しています。

◆真駒内地域の人口の推移



(国勢調査)

② 小学校の統合と閉校後の跡利用

こうした人口構成の変化を受けて、平成 24 年（2012 年）4 月には地域の小学校 4 校が 2 校に統合され、小学校として使われなくなった旧真駒内小学校と旧真駒内緑小学校の跡利用の検討が必要となりました。

③ 公共施設等の老朽化

公共施設等については、札幌冬季オリンピックや政令指定都市移行の前後に整備されたものが多く、それぞれ老朽化が進みつつあります。駒岡清掃工場についても、建替えに向けた検討が必要な時期にさしかかっており、接続している地域熱供給のあり方などについても検討が必要です。

④ 地域から寄せられた意見等

地域の課題やまちづくりの方向性については、地域住民等と札幌市が意見交換等を重ねてきました（22 ページ以降参照）。

ここでは、駅と商業施設等が離れていて不便との指摘や、駅前のさらなる利便性やにぎわいを求める意見、交通結節点としての機能の向上を望む意見などが寄せられました。こうした意見等を踏まえて、平成 23 年度に駅前の駐輪場を拡充するなど、段階的な取組も行っています。